***2014/10/1議事録***

**◆のんちゃんの問題意識**

労働市場でどんな**変化**があり、（なぜ変化するのか）

（具体的には…、Jモードの崩壊、不況、学歴構成の変化（’60, ‘90））

→労働需要の変化が起きる？

　採用抑制、非正規化長時間化

→高卒の就職にどんな影響があり、高校側はどういう対応ができるか

＝影響：二極化

　対応：「教育の職業的意義」

→文部科学省の答えは「キャリア教育」「職業教育」(’11)

◇どこの段階を見る？

高卒＝普通高校？、専門高校（工、農、商、水産、家政、看護、調理…）？、総合制高校？

**◆論の方向案 変化Xに対しキャリア教育は対処できないのではないか**

**◆堺屋太一**

「知価社会」の到来、製品そのものに付加価値をつけないと売れない時代

工業製品の価格はほぼ下がらない

iPhoneとかブランド物の値段（付加価値をつけたもの）は下がる

半導体は大量生産に向いている、製品そのものの価値が下がる

ファブレス：工場のない→印刷業（出版社、印刷所）に近い

ファウンドリ（サムスン）：工場しかない

知価社会ではファウンドリ化

銀行、設計部、工場が独立して、設計部と工場が対等になる

→でも、ファウンドリ内でまた階層化しない？→とりあえず非正規化や長時間化は防げる

**◆「高卒の就職口がない」の高卒はどの高校？**

工業→製造業に就職（52300人中2800）　6割弱

農林業→農林業に就職　5パーセント

**◆◆◆調べなきゃいけないこと◆◆◆**

・何処の就職がだめなのか→普通科と専門？どっちにフォーカス？

・高校の職業教育に関するもの　（平村、上野）

・キャリア教育の先行研究（むらしほさんは制度面⇒内容！）　（寺澤、笠原）

・進学率の変化

***2014/10/8議事録***

**◆のんちゃんの構想**

・将来の労働力需要の変化

・需要に対する供給面（高卒就職の数）

→これらに対して、高校側が何ができるか？

例)パソコン業務が増えるから、パソコン能力をつけさせる。

意見！

・PPなくない？

・現状に対して問題を見つけないと進められなくない？

**◆のんちゃんので進めるとしたら…**

**◇案その１**

PP：現在行われている職業教育は、現状の労働の需要と供給に対応する教育を行っているが、それでは将来的に（＝長期的に？）労働力の需要と供給に齟齬が起こるのではないか？

⇒将来予測をした教育を行うべき！

って感じ？

意見！

・長期はどのぐらいのスパン？

・昔、現状に対して対策して今ぽしゃってるやつを適応させる？（あるのかな？）

**◇案その２**

PP：現在行われている教育行政の将来予測の像が間違っているのではないか？

⇒将来予測は違うからもっと○○にするべき！

例)グローバル化、IT化などという将来像を持っている？そこに対して問題点を見出す？

（グローバル化→ホワイトカラーにしか適応されていないのでは？とか…）

**◆◆◆宿題◆◆◆**

“現在、どのような方針・意図で職業教育（キャリア教育）が行われているのか？”をまとめる

→問題だと思う点があれば指摘

～割り振り～

笠原：・中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」

・キャリア教育における外部人材等活用に関する調査研究協力者会議

上野：・キャリア教育に関する報告書「学校が～」を作成

寺澤：・「キャリア教育における外部人材活用等に関する調査研究協力者会議」中間取りまとめ

平村：・「キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告」

上野：・職場体験・インターンシップ実施状況等経年変化に関する報告書

・「職場体験・インターンシップに関する調査研究（報告書）」

寺澤：・「キャリア教育等推進プラン―自分でつかもう自分の人生」

・「高等学校におけるキャリア教育の推進に関する調査研究協力者会議報告書」

平村：・「若者の自立・挑戦のためのアクションプラン（改訂）」

・「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議（報告書）」

***2014/10/15 議事録***

**◆宿題の共有**

**◇全体的な傾向**

やりたいことを探せ←中等教育段階

↑

↓

産業界が必要＝専門←高等教育段階、中等教育段階ではやられていない

⇒高卒就職の問題が生じる？？

**◇高校のどこを扱うかによって変わってくる？**

→普通科？専門科？

普通科の中でも進学が多いのか就職が多いのか？

**◇文部科学省のキャリア教育は普通科、専門科、総合学科で分かれている！**

「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」[[1]](#footnote-1)

**◆仮説を考えよう！**

問題：就職できない、離職率が高い、非正規率が高い、一度非正規になると戻れない、ニート・フリーター

＝文部科学省が挙げる問題

→キャリア教育（普通科、専門科、総合学科）

→キャリア教育の概要：産業社会と人間、講話、履修、知識、ライフプラン、総合の時間

普通科で重点！（生き方、働き方、先送りできない）

普通科で行われている内容

・職業体験、インターンシップ

・上級学校の見学、体験

・体験発表、講演

・ワークシートを用いた学習

・カウンセリング

→批判[[2]](#footnote-2)[[3]](#footnote-3)[[4]](#footnote-4)[[5]](#footnote-5)

・適応主義的傾向（経済無視）

・内容の偏り（本田）

・方法論の曖昧さ（具体的でない）

・自己実現モデルの弊害

→Not構造的要因問う、But若者の意識や能力に求め教育によって打開をはかる

→教育の限界？状況に則すものではない？

　状況：景気低迷、雇用慣行の変化（、知価社会）

**◆◆◆宿題◆◆◆**

笠原：①問題意識が文部科学省と同じか確認

上野：②普通科でキャリア教育がどういう内容で行われているか？

寺澤：③構造的要因（文科省は？）

平村：④キャリア教育の問題意識（内閣府、厚生省、経産省）

***2014/10/22 議事録***

**◆現実の問題点を洗い直そう！**

**◇教育と職の回復**

BUT 就職させるなら学校教育じゃなくてもOK?

　　　例えば、ハローワーク、放課後学校

**◇企業の教育しなくなってる？**

例えば、経理のキャリア積む　米は可⇔日は不可

→企業でも学校でも×

**◇キャリア教育は技術育成ではない**

→終身雇用とは別方向？

**◇普通科の特質＝汎用的な能力育成**

**◇高卒＝一生非正規？**

**◇正社員でないと訓練受けられない＝非正規だと一生非正規**

**◇高卒の何が問題？**

・高卒は非正規多い（非正規だと一生非正規…）

・就労率の低さ

・学歴社会の壁

→何故非正規が問題？

富の再分配、少子化、階層固定（付きたい職に付けない）、雇用形態、職種の転換可能性が必要

**◆論の案・その１**

頑張れば報われる　コミュニティカレッジinUSA→高校

→何が阻んででいるのか？

　・高校教育費

　・フルタイム非正規

　・奨学金

　・教育訓練の欠如（公的にはない←フリーターはお金ない←フリーター率高い

　（民間はあるけど高いー教育訓練給付制度（三年以上就労）←三年離職率44％）

　＝雇用保障の漏れ

→高校は何ができる？

→既存対策の成果＆先行研究

⇒指摘されていない視点＆提唱されていない対策

**◆論の案・その２**

高卒就職する人、した人が直面する問題に対して、キャリア教育は対応できている（もっとできる）のか？

直面する問題＝一生非正規（浮き上がれない）？、学歴の壁？

**◆◆◆宿題◆◆◆**

・本田由紀さんの本、４と５章読む。

・高校就職の人が直面する問題について調べる。

***2014/10/29 議事録***

**◆論のアイデア**

学校と社会がうまくいっていなくて、原因は、教育に求められるようになった能力ともんかのキャリア教育で行っていることに齟齬があることなのではないか？

・教育に求められるようになった能力→企業などによる、産業構造の変化が要因か

・キャリア教育で行っていること→文科の規定及び各校での実践

**◆論の流れ！**

序章班の問題意識

高校生の就職の問題（特に普通科）

１章Practicalなproblem

学校と社会の接続が上手くいっていない？（ニートとか）

→なんで？

→その解決策の一つとしてのキャリア教育

＝我々はキャリア教育に注目する

２章キャリア教育に関する先行研究に基づいた問題の考察

→キャリア教育の不全

３章仮説提示

キャリア教育には○○という要素が欠けている

※○○は社会（企業）が求めている要素

４章論証

企業側の要求と文科省の目標の齟齬

５章補足命題

教育は社会に応答する必要があるのか？

６章残された課題

**◆◆◆宿題◆◆◆**

・上野：キャリア教育の実践

・笠原：企業側の求めるもの

・寺澤：普通科高校の特徴

・ひらむら：キャリア教育の求める能力等

***2014/11/05 議事録***

**◆論の流れ（先週のおさらい）**

序章

班の問題意識

１章

Practicalなproblem

２章

先行研究

３章

仮説提示

４章

論証

**◆きわむくんの宿題発表**

**◇普通科の生徒の実情**

・75％が高等学校への進学

・25％が就職（彼らに知識・技能等を身に着けさせることが重要である）

→実践的な能力を育成していない

⇔専門的な能力を身に着けている人と同じ就職戦線に立たなければならない

・キャリア教育は普通科に拡充することを重視しているby文科

**◇高校生の将来展望**

→「わからない」「ない」多い、働くことへの気がかり

→対人関係

**◇学習の断絶**

→「今」と「将来」の断絶

＝将来との関係みえず

教科学習への意欲低い

**◇高卒の若者たちの不安定就労傾向**

**◆愛子ちゃんの宿題発表**

普通科のキャリア教育

・今調査しよう！とする段階

・特徴的なものだけ取り上げられている

**◆ひらむらの宿題発表**

**◇学校から社会への円滑な移行**

１．基礎的・基本的な知識・技能

例）読み書き計算、税金や社会保険、労働者の権利、義務の理解

２．基礎的・汎用的能力

例）コミュニケーション能力、熱意・意欲、行動力・実行力

３．論理的思考力、創造力：

物事を論理的に考え、新たな発想等を考え出す力

社会を健全に批判するような思考力

変化の激しい社会において、自ら新たな社会を創造・構築していくために必要

４．意欲・態度及び価値観：

「なぜ仕事をするのか」「自分の人生の中で仕事や職業をどのように位置づけるか」などの勤労観・職業観を含む

５．専門的な知識・技能

**◇キャリア教育の目標**

a．人間関係形成・社会形成能力：

多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力

例）他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーションスキル、チームワーク、リーダーシップ

b．自己理解・自己管理能力：

自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、見ず方の思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力

例）自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動

ｃ．課題対応能力：

仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力

例）情報の理解・選択・処理、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善

ｄ．キャリアプランニング能力：

「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力

例）学ぶこと・働くことの目的・意義の理解、生き方の多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善

**◇高等学校におけるキャリア教育の目標**

α．自己理解の深化と自己受容

β．選択基準としての勤労観・職業観の確立

γ．将来設計の立案と社会的移行の準備

δ．進路の現実吟味と試行的参加

**◆のんちゃんの宿題**

**◇社会から求められるもの**

・経団連とか→高等教育接続前提（…使えない？）

・キャリア教育

→職業に特化

→基礎的能力（土台）のぼってこない←1が欠けてる？

**◆論の展開Ⅰ**

①基礎学力という視点の不足

②キャリア教育の先行研究における基礎学力という視点の必要性を指摘した観点

③基礎学力→財界要望にも合致

④③が②にない　←あたらし!!

**◆論の展開Ⅱ**

①基礎学力不足

②先行研究も言ってるよ

③財界の要望も考慮したものじゃないじゃん

④私たちは財界が重要だと思う

（←学校教育が社会に合わせていていいのか??）

**◆◆◆宿題◆◆◆**

来週水曜までに先行研究を見て、以下の点をまとめてくる。

・高等学校普通科のキャリア教育の課題（や問題点）として指摘されていることは何か？

・キャリア教育の課題として学力が指摘されている先行研究では具体的にどのような指摘がなされているか？

などなど…

※使えなさそうなものは×、使えそうなものはwordにまとめる、めっちゃ使えそうなものは全部印刷して線を引いてくる！！

***2014/11/12 議事録***

**◆新しい論**

アメリカのキャリア教育

→漠然としたため批判を受ける

→“学力＋意欲”という路線に変更！

⇒日本も！！

〈調べないといけないこと〉

なんで学力を重視するようになったんだ？

アメリカのキャリア教育における学力とは？

**◆アメリカのキャリア教育について調べてみよう！**

**◇アメリカのキャリア教育の目的**

＝学力向上＋コミュニティを支える人材の育成

Career technical Education：

・どのような専門性をもって、何になりたいかを考えさせる

・地域の実情を知る→学校と地域を結ぶコーディネーターが重要

**◇1990年代の改革**

〈１〉1990修正職業教育法

〈２〉米国労働省

**◇日本「キャリア発達的視点で生徒の能力を育てる」**

→アメリカの能力モデル

⇒意味ない！

＝我が国は「４能力８(12)領域」

**◇アメリカ→キャリアへの道筋、産業・地域などとの連携**

　日本→職場・労働・仕事

**◇米と日のキャリア教育の違い**

①米：職業教育や中等教育の改革理念や、それ自体の新たな姿として追求

　日：職業能力開発という意味の職業教育の位置付け弱い

②米に比べて普通教育におけるキャリア学習の視点が部分的

③目標

　米：スキル、コンピテンシー、モチベーション

　日：価値観、職業観

**◇アメリカにおけるキャリア教育の歴史（？）**

1970年代 キャリア教育運動

（全国的な広がり！）

普通教科への職業的内容の「注入」

1980年代 普通教育重視の連邦教育改革により衰退…

キンチェロー（Kincheloe, 1999）

：企業から教育への人材育成に関するニーズが高まってきた!!

1990年代 学校から社会への移行に注目！

1994年 「学校から仕事への移行機会法」（School-to-Work Opportunities Act; PL103-239）

アカデミックな教育と職業教育との融合！

文脈的教授・学習、新しい学習観

**◆新しい論**

問題

→キャリア教育の実践が分離（学力と意欲に）しているのではないか？

→先行研究、アメリカ

→日本のキャリア教育は問題を抱えているのでは？

→・カリキュラム

　・カウンセラー　などなど…

…同じようなこと言われてるやないか。

**◆新しい論（？）**

学校と社会の接続が上手くいっていない（ニート、フリーターなど）

→先行研究検討

→社会（企業）が求めているものと、学校がやっていることが違うんじゃない？

→文科（意欲）⇔経産・日本商工会議所（学力）

→アメリカでも実際に学力の重要性が認識されているようだ！

◆◆◆宿題◆◆◆

・この論で進められるのか情報を集める

・いけないと思ったら、代案を考える…ところまでできればしてくる！

***2014/11/14 議事録***

**◆“キャリア教育に学力の視点が足りていない！”で行く…？？**

**◇進める上での問題１**

そもそも、学力が必要なのが当たり前すぎて、先行研究者によっては、学力UPを前提で論を進めている人も…。

**◇進める上での問題２**

日本で言うキャリア教育自体が、「意欲」などを指しているので、「学力」は全く別の領域と捉えられているのでは？

＝「学力」足りないとかいうこと自体、キャリア教育を理解できていないということなのでは？

**◇進める上での問題３**

ここでいう「基礎的」学力とは？

文科省→読み・書き・計算

企業側→？

→企業側の求める学力が規定できなくない…？

〈企業の求める学力は規定できるのか？できないのか？論争〉

・日本商工会議所によるアンケート調査では、企業側は学力を求めている

→企業によってどういうレベルでの学力を指しているのか違うので、論証に使えないのではないか？

・資格要件とか見てみたら？

→資格要件はあったらプラスというだけで、最低条件ではないのでは？

→ハローワーク等の学力支援の内容を見てみて判断する？

・企業の求める学力って本当に読み書き計算なのか？

→読み書き計算としか表現できないのでは？

→企業の求める学力は規定できない、感覚的なものなのではないか？

　＝だからこそ、基礎的な学力としか言いようがないのでは？

　例) 日本国民の義務と権利ぐらい知っててよ！

**◆新しい論**

キャリア教育は、どのように教えるかが明確になっていない

→それじゃぁ、教員研修とかできないし、なかなか広がりにくいよ…((+\_+))

→じゃぁ、どう教えればいいのかな？

→メノン

|  |
| --- |
| エピステーメ  知識は教えることはできる  ドクサ  考えは教えることはできない |

→キャリア教育で教えていることは、知識か、考えか

→【知識】　村井Em1型でOK

　【考え】　村井Em3型である必要

→キャリア教育の現在の実践はどうなっている？

（Em1 or Em2型になっている！とか…）

⇒Em3型にすべき！　Ex) カウンセラーとか

◆◆◆宿題◆◆◆

上野：キャリア教育の実践を見てくる

笠原：明日はお休み☆

寺澤：メノン読む

ひらむら：村井まとめる

1. 「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」<http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2011/02/01/1301878_1_1.pdf>　（取得日：2014年10月15日） [↑](#footnote-ref-1)
2. 児美川孝一郎（2008）「キャリア教育政策の現段階」『教育』国土社 [↑](#footnote-ref-2)
3. 本田由紀（2009）『教育の職業的意義―若者、学校、社会をつなぐ』筑摩書房 [↑](#footnote-ref-3)
4. 阿部真大（2006）『搾取される若者たち―バイク便ライダーは見た！』集英社 [↑](#footnote-ref-4)
5. 苅谷剛彦（2008）『学力と階層―教育の綻びをどう修正するか』朝日新聞出版 [↑](#footnote-ref-5)